

北海道札幌視覚支援学校



学校だより

令和7年度 第4号

令和8年3月24日発行

〒064-8629

札幌市中央区南14条西12丁目1番1号

TEL 011-561-7107

URL <http://www.sapporoshikaku.hokkaido-c.ed.jp/>

「限界を決めつけない心」

校長 井上 敬

皆さんはプロレスって知っていますか。プロレスは、相手と直接ぶつかり合う格闘技でありながら、観客を驚かせる技や演出で会場全体が熱気に包まれるスポーツエンターテインメントです。投げ技や関節技、飛び技など多彩な技を出し合うため、プロレスラーには強靱な肉体と高度な技術が求められます。私も中学生のころはプロレスが大好きで、「プロレスラーになれたらいいなあ」と思ったこともありましたが、相手の動きをよく見ることができない弱視の私は、それは「無理だ」とすぐに諦めました。

そんな私が今年、あるラジオ番組で全盲のプロレスラーがいることを知り、衝撃を受けました。その人は全盲でありながら、長年の夢だったプロレスに挑戦する道を選びました。いくつものプロレス団体に入団を断られても諦めず、ついにプロレスラーとしてデビューし、今もリングに立ち続けています。全盲であっても、音や熱、相手の呼吸を感じて戦っているそうです。戦うリングの広さは体で覚え、足音の反響で距離をつかみ、相手の体温で位置を察知するとも語っています。視覚を失っても、工夫と努力で戦うための感覚を自分の中に作り上げてきたのです。

彼の試合では、対戦相手も視覚障がいや理由に手加減することはありません。他のレスラーと同じように飛び技もぶつけてきます。それは、障がいがあるから遠慮するの

ではなく、一人のプロレスラーとして対等に向き合うという敬意の表れだと思います。

もちろん、ブラインドサッカーのように全員が目隠しをして同じ条件で競技する挑戦の形もあります。挑戦の仕方は一つではありません。条件をそろえて挑む方法もあれば、あえて不利な条件のまま飛び込む挑戦もあります。どちらが正しいということではなく、それぞれが望む形で挑戦できることが大切なのだと思います。

この全盲のプロレスラーの話を通して皆さんに伝えたいのは、「できる・できない」を決めているのは、自分の心の中にある“限界”や“無理”という思い込みではないかということです。見えない・見えにくいことや苦手なことがあっても、工夫する力、努力を続ける力、そして夢をあきらめない気持ちがあれば、可能性は広がっていきます。

皆さんの中にも、「本当はやってみたいけれど、自分には無理かもしれない」と思っていることはないでしょうか。

どうか覚えておいてください。“できない理由”より、“できる方法”を探す人が、夢に近づいていきます。

この一年を振り返ると、皆さん一人ひとりが、それぞれの場面で本当によく努力してきたと思います。その積み重ねは、皆さん自身の力でつかんだ成果です。

もうすぐ新しい年度が始まります。どうか自分で限界を決めつけず、思い描く夢や目標に向かって、これからも一歩ずつ進んでいてください。皆さんの挑戦を、これからも心から応援しています。

卒業生からのメッセージ 小学部

2組 吉岡 愛琉 母

この春、愛ちゃんが小学部を卒業します。入学した日を思い出すと、6年間の時間の重みを感じます。医療的ケアがあり、たくさんの配慮が必要な愛ちゃんですが、学校ではいつも温かく迎えていただきました。愛ちゃんが学校大好きなのは、愛ちゃんに関わって下さった方々のおかげです。支えてくださったすべての方に心から感謝しています。本当にありがとうございました。

卒業生へのメッセージ 小学部

ご卒業おめでとうございます。
自分らしく、新しいステージへ

2組担任 佐藤 恵美子

小学部ご卒業本当におめでとうございます。一歩ずつ確実に且つ力強く積み重ねてきたこの6年間、その努力が今の愛琉さんの大きな自信につながっているはずです。これまで6年間でお世話になった先生方から教わったことを思い出してください。

4月からは、同じ学び舎の中学部へと進学しますね。場所は同じでも、そこには新しく始まる学習や、より深い学びの世界が広がっています。これまでの歩き慣れたはずの廊下を歩くと、聞こえてくる音や肌に触れる風が、小学生から少しだけ「大人」の中学生に感じられるかもしれません。

愛琉さんが小学部で培った「粘り強く挑戦する心」と「周りを和ませる優しい笑顔」があれば、中学部でもたくさんの素敵な出会いが待っています。

中学部という新しいステージでも愛琉さ

んらしく光り輝くことを心から願っています。

保護者様には今まで大変お世話になりました。登下校の送迎、懇談の際など、いつも温かなお言葉を掛けてくださり、とても嬉しく思いました。本当にありがとうございました。学級のためにいつもご協力下さり、大変感謝申し上げます。これからも皆様のご健勝をお祈り申し上げ、4月からの中学部でのご活躍を期待しています。

卒業生からのメッセージ 中学部

中学部の思い出と高校生活に向けて 3組 厚川 翔太

中学部の三年間では、見学旅行やフロアバレーボールの大会、児童生徒会の活動などが思い出に残っています。

見学旅行では、北海道函館市に行き函館山を登ったり五稜郭タワーに行ったりして、上からの綺麗な景色を見ることができて楽しかったです。また、ラッキーピエロのハンバーガーや焼き鳥弁当などが美味しかったです。

フロアバレーボールの大会では、試合に出場することができ嬉しかったです。二度と経験することはないであろう、地元の札幌で開催された大会に出場し、よい経験をすることができました。

児童生徒会の活動では、挨拶運動に積極的に参加し、みなさんのお手本となるような挨拶ができたことが思い出に残っています。

高等部では、礼儀正しく、整理整頓ができるような高校生になりたいと思っています。また、部活動にも積極的に参加して技術を磨きたいと考えています。

3組 川上 心愛

中学部でいちばん心に残っていることは、3年の学校祭です。

学校祭では、中学部のみんなで合唱や劇をしました。学校祭の練習は中学部らしく、にぎやかでとても楽しい時間で、本番が待ち遠しいほどでした。本番はうまくいかドキドキしていましたが、みんなの心がひとつになって、合唱はすてきな音色を奏で、劇では観客を笑顔にすることができました。特に、合唱はみんなの歌声がひとつの音になっていて、歌いながら感動したことを覚えています。辛い3年間でしたが、最高の仲間との時間は一生の思い出になりました。

高等部では、音楽や情報の授業、生徒会の活動を頑張りたいと思っています。そして、悩んでいる仲間がいたら優しく手を差し伸べてあげたいと思います。

3組 高橋 亘

私の中学部での思い出は中学2年生で行った宿泊研修、3年生で行った見学旅行です。

2年生の宿泊研修では野外炊飯をし、カレーライスを作って食べたことが思い出に残っています。みんなと協力して作ったカレーライスはとてもおいしかったです。また不思議の森での遊具遊びも印象に残っています。

3年生の見学旅行は函館に行き、ロープウェイに乗って函館山から景色を眺めたり、自主研修では旧イギリス領事館に行ったりしました。特に、龍鳳というラーメン屋さんの函館塩ラーメンが印象に残っています。また、こどものくにのアポロ2000や飛行機などの乗り物も楽しかったです。日本最古の観覧車は窓がなく、そのままの風や音を感じることができました。

高等部では理科や数学の勉強や、部活動や委員会活動なども頑張りたいと思います。

卒業生へのメッセージ 中学部

3組担任 田中 百音

中学部3年生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

担任として関わったのは2年間でしたが、1年生の頃からそばで見守ることができ、みなさんの成長を感じる3年間でした。

野外炊飯の最中に大雨が降り、笑い合ったことや、みなさんが自分たちで時間を決めてこどものくにに集合でき、お化け屋敷を足早に進んだことなど、思い出は尽きません。行事だけでなく、日々の学校生活の中でも自主的に学級の決まり事を作り、お互いに声をかけあった行動ができるようになり、心も大きく成長しました。

4月から始まる高校生活を通して、さらに成長していく姿を楽しみにしています。初めて担任としてみなさんと過ごした日々は、私にとっても学びが多く、支えられる場面もあり、ずっと忘れられない時間になりました。

最後になりましたが、保護者の皆様には、日頃より教育活動へのご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。

卒業生からのメッセージ 高等部・普通科

「3年間の思い出」

3年1組 岩本 果穂

高等部普通科での三年間を振り返ってみると、長いようであっという間の毎日でした。入学したての頃は不安もありましたが、落ち着いた環境の中で充実した学校生活を送ることができました。

三年間の中では、学校祭や見学旅行など

様々な行事がありました。どれも思い出深いものですが、私にとって何より記憶に残っているのは、普段の何気ない学校生活です。休み時間に友人と言葉を交わしたり、他愛のない会話で笑い合ったり。そんな当たり前の日常こそが、私にとってはとても楽しく、心地よい時間でした。

最後になりますが、これまで支えてくださった先生方、職員の皆様、そして共に歩んだ友人たちに感謝しています。ここで得た思い出や経験を糧に、卒業後も一步ずつ頑張っていきたいと思います。三年間、本当にありがとうございました。

「3年間を振り返って」

3年1組 黒木 杏音

卒業の時期がだんだんと近くなるにつれ、だんだんと寂しい気持ちになりました。私がこの3年間で思い出に残っている行事について振り返りたいと思います。

1つ目は見学旅行です。中でも思い出に残っていることはUSJで、とても美味しいチョコバナナのクレープを食べたことです。2つ目は学校祭です。学校祭は3年間とも楽しく、特にクラスで行った模擬店が印象に残っています。3つ目は、光塩調理製菓専門学校へ行き、ピザとジュレを作ったことです。どちらもとても美味しかったです。これらの思い出の他にも、たくさんの思い出があり、書ききれないほどです。

後輩の皆さん、普通科での3年間はあっという間に終わると思います。毎日を大切にしてください。そして、今まで授業を教えてくれた先生方、困ったときに助けてくれた寄宿舎の先生方、後輩たちにもすごく感謝しています。皆さん、今まで本当にありがとうございました。

「3年間を振り返って」

3年1組 中村 蕾咲

私は高等部普通科を卒業し、専攻科に進学することになりました。普通科入学時から、教科数が増えたり、勉強も難しくなったりするなど、それまでとは、ほぼ全てのものが変化して辛かったこともありましたが、そこから得たものがたくさんありました。

さらに、私は部活動で、新しい物事に挑戦したり、歩行訓練にも取り組んだりしました。特に歩行訓練では、夏季の単独帰省の許可を得るまでの2年半、私はルートを間違えたり、失敗が続いたりする中でも、自分の目的を忘れずに取り組み続けることができました。

在校生の皆さんへ。もし何か自分の中でやってみようかやらないかと迷ったら、1回やってみることをお勧めします。それが失敗しても成功しても良い思い出になるからです。私を支えてくれた皆様へ。私は専攻科で専門的な知識を学び、そして資格を取り、支えてくれた皆様に恩返しができると思っています。本当にありがとうございました。

「3年間の思い出」

3年1組 伏見 心来

3年間を振り返ってみると、私は人との関わり方の大切さと、自分で考えて行動する力を学ぶことができたと思います。入学当初は新しい環境に慣れることに精一杯で、不安を感じることもありましたが、先生や友達に支えられながら少しずつ学校生活にも慣れていきました。授業や行事、日々の活動を通して、多くの経験を積むことができたと感じています。

長く感じていた三年間も、三年生になると毎日が早く過ぎていくように感じ、卒業が近づくにつれて時間の大切さを実感しました。見学旅行や学校祭などの行事はもち

ろん印象に残っていますが、何気ない日常の時間も心に残っています。この三年間の経験を、これからの生活にも生かしていきたいです。支えてくださった先生方、本当にありがとうございました。

「3年間の思い出」

3年1組 吉田 尊歌

この三年間を振り返ると、何事にも「メリハリ」を持って向き合うことの大切さを学んだ日々でした。授業や行事、日々の課題など、やるべき時は集中して取り組み、楽しむ時は心の底から全力で楽しむ。この切り替えがあったからこそ、壁にぶつかった時も仲間と共に乗り越え、充実した高校生活を送ることができたのだと感じています。卒業後も、この「一生懸命に挑み、一生懸命に楽しむ」自分であり続けたいです。

最後になりますが、共に笑い合った友人たち、親身に御指導くださった先生方、そして生活を支えてくださった寄宿舍の皆様、三年間温かく見守ってくださった全ての方々に心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

普通科の思い出

3年2組 高住 あかり

私が普通科で楽しかったことは、校外学習で、みんなと新札幌に行ってラーメンを食べたことです。友達や先生とたくさんお話しをしたのも楽しかったです。私が頑張ったことは、職業で時間いっぱいビーズストラップや、フェルトのあいりすを作ったことです。学校祭で色んな人に買ってもらえて嬉しかったです。今までありがとうございました。また会いましょう。

3年間の思い出

3年2組 羽田 巨太郎

僕が1番楽しかったのは、3年生の校外

学習で丘珠空港に行ったことです。思い出に残っていることは、飛行機を見たことと、カレーを食べたことです。飛行機はプロペラがあってかっこいいと思いました。また飛行機に乗りたいです。カレーは丘珠空港のレストランのおすすめだったので食べました。甘口で美味しかったです。

丘珠空港は、3年3組の皆さんと一緒に行きました。みんなと入れてよかったです。

僕が特に頑張ったことは職業のマドレーヌ作りです。出来るようになったことは、「の」の字で混ぜることと、卵を割ることです。僕が今頑張っているのは靴紐です。卒業しても自分で縛れるように練習していきます。

後輩のみんなへ。学校祭に行きたいと思っているので、会えるのを楽しみにしています。頑張ってください。僕も頑張ります。

3年間で出来るようになったこと

3年2組 山下 栞那

私が出来ようになったことは、1つ目は敬語です。途中で喋るのをやめずに最後まで言って、色々な先生に敬語を使うことができました。疲れた時でも敬語を使えるようになりました。お母さんじゃなくて母と敬語で言うことができました。

2つ目は、難しい作業にも挑戦することです。自分からやると先生に言うことができました。心の中で頑張る気持ちになって作業をすることができました。

3つ目は、漢字です。iPadで調べなくても書ける漢字が増えました。そして、たくさんの漢字を読めるようになりました。

卒業したら、一緒に働く皆さんの力になれるように仕事を頑張って、お金を貯めてかわいい服を買いたいです。今までありがとうございました。

「卒業にあたって」

3年3組 伊藤 匠

私はこの学校に10年間いました。その中で一番心に残っていることは、たくさん友達ができたと、親友と呼べる人ができたことです。できたときは、大変うれしくて、たくさん友達と話をしました。

私の今後の課題は、家にいるとき、中華や卵料理ができるようになることと、洗濯機で洗濯ができるようになることです。そして、できれば動画編集も上手になりたいです。

皆さんにはいつも笑顔でいてほしいので、私が好きな言葉を送ります。

「あきらめなければ、願いは叶う」、by
仮面ライダー ギーツ

「最後まで希望をもってください。」

卒業生へのメッセージ 高等部・普通科

「ご卒業を祝って」

3年1組担任 古御堂 敦子

今年度の専攻科合格発表は、2月12日でした。3年1組の5名は、専門学校、大学、そして専攻科への進学を希望していましたが、この日、全員の進路が無事に決定し、全員で喜び合いました。

これまで、5名のみなさんは、クラスメイトの受験が近づくたびに、互いを思いやりながら静かに応援し、受験当日にはエールを送り、試験後には合格を祈り合ってきました。合格が決まった後も、まだ受験を控えているクラスメイトがいることを気遣い、過度に喜ぶことをしない温かさがありました。

卒業の時を迎え、4月からはそれぞれの道を歩み始めますが、これからも心はつながっていくのでしょうか。このような素晴ら

しいみなさんの担任を3年間務めさせていただいたことは私の誇りです。

これまでの温かなご理解とご支援に、深く感謝申し上げます。卒業生一人ひとりの前途が、希望に満ちたものとなることを心よりお祈りいたします。

3年2組担任 角田 萌

今年の学級目標はエボリューション～たのしむクラス～でした。皆さんは3年間でたくさんエボリューション(進化)し、何事も楽しむ姿勢も持つことができました。それは、周りの人たちの支えがあったことで、中には自分が気付いていない支えもあると思います。学校は卒業しますが、ここからが進化の本番です！周りの人たちへの感謝を忘れず、何事も楽しんで、カッコいい社会人になっていってくださいね！ご卒業おめでとうございます。

「卒業生・修了性の皆さんへ」

3年3組担任 小薬 庸子

卒業生・修了生の皆さん、御卒業おめでとうございます。

今日まで三年間、学習はもちろん、行事や部活動で、懸命に努力を重ねる姿に、私が日々励まされてきました。新しい生活の中では、時に困難な場面もあるかもしれませんが、そんな時は、この学校での学んだ経験を糧に強い意志を持って前へ進んでいって下さい。心より応援しています。

卒業生からのメッセージ 高等部・専攻科

保健理療科3年 後藤 沙璃

入学したばかりのころは、授業や実技についていけるか不安でした。うまくできず、落ち込むこともありましたが、続けていくうちに少しずつできることが増えていきました。毎日の授業や実技はたいへんなこともありましたが、そのぶんやりがいや達成感も感じられました。振り返るとあっという間の3年間でしたが、様々な経験ができた時間だったと思います。この3年間で学んだことをこれからは活かしていきたいと思います。3年間本当にありがとう。

保健理療科3年 千葉 葵

高校からこの学校に来て6年間通ってました。普通中学校から視覚支援の学校に来て勉強のしやすさや過ごしやすい環境で毎日充実していました。私は運動が好きなのでフロアバレーボール部に高校1年の夏頃から専攻科3年まで入部していました。最後の大会は北海道で行われて良い結果は残せなかったけど一番楽しかったし、部員も最高でした。専攻科の勉強大変だったけど、色々な人と出会えて楽しかったです。皆これからも頑張ろね~!!!

卒業に際して

理療科3年1組 池田 亮吾

振り返るとあっという間に過ぎ去った3年間でした。初めはたくさんの不安を抱えていました。40代で弱視となってから改めて学校に入学し、一から新しいことを学ぶ勉強についていけるのか。周りとうまくやっていけるのか。就職は大丈夫なの？こういった考えばかりが頭で渦巻いていました。しかしそれらは学校生活を続けるにつ

れ薄れていきました。これは先生方の厚いサポートがあったからこそだと思います。実技で放課後遅くまでご指導してくださったり、色々な相談にのっていただいたりと拳げていくときりがありません。改めて感謝を申し上げます。そして楽しみだった給食のありがたさは卒業後実感するんだろうと思います。最後に、この学校に関わる全ての方々は人の温かさと心の力を感じさせてくださいました。校歌の歌詞を体現しているその素晴らしさを私も胸に秘め、施術者としての道を歩んでいきます。

理療科3年1組 佐々木 好誠

私はこの学校に10年間在籍し、多くの時間をここで過ごしてきました。入学した頃は不安もありましたが、日々の学習や行事、友人との関わりを通して、少しずつ成長することができました。その歩みを支えてくださったのは、いつも温かく見守り、時には厳しくご指導くださったたくさんの先生方です。先生方から教えていただいた知識だけでなく、人として大切なことも、これからの人生の支えになると感じています。10年間で得た経験と感謝の気持ちを胸に、新しい環境でも努力を重ねていきたいと思えます。

理療科3年1組 相馬 裕輝

私は、この学校に入学するにあたり、東京から地元北海道へ戻ってきました。

入学当初は、再び学生として学ぶことへの戸惑いや、視覚支援学校という初めての環境に不安もありました。

それでも先生方や、共に学ぶ仲間存在に励まされ、少しずつ学校生活が楽しいものへと変わっていきました。

二年生になってすぐにスポーツで大きな怪我を負い、復帰できるかどうか不安な時期を過ごすことができました。周囲の支え

があったからこそ、前向きに努力を続けることができ、こうして回復することができました。

臨床実習では、患者様に施術させていただく中で、自分の未熟さと向き合いながら学ぶことができました。その積み重ねが、今の自分の力になっています。ご協力いただいた患者様皆様に感謝しております。

四月からは新たな環境となります。ここでの学びと感謝の気持ちを忘れず、社会に貢献できる理療師を目指します。

理療科3年1組 中村 泰騎

高等部普通科から専攻科までの10年間、北海道札幌視覚支援学校で過ごした日々は私にとって、かけがえのない財産です。3月1日をもってこの学び舎を卒業します。特に専攻科での日々は、校外での実践的な活動が多く、深く印象に残っています。解剖実習では普段触れることのできないご献体を通じて、筋肉や骨の構造を立体的かつ深く理解するという、治療家としてきわめて貴重な経験をさせていただきました。また、北海道庁や北海道マラソンでのボランティアマッサージでは、実際に多くの方の体に触れ、感謝の言葉を直接いただくことで、施術の力と責任の重さを肌で感じることができました。これら数多くの実践的な学びを支えてくださった先生方、そして共に歩んだ仲間から心から感謝いたします。ここで培った知識と経験を胸にこれからも日々精進してまいります。10年間本当にありがとうございました。

在校生へのメッセージ

理療科3年2組 荻田 詩織

私は辛いときも楽しいときもこの言葉を思い浮かべます。「生まれれば終わる」。私が小学6年生の担任の先生の好きな言葉です。当時の私は意味がよくわかりませんでした

が、今となっては少しわかる気がします。良いことも悪いことも常はなく、変わりゆき、必ず始まりと終わりが来ます。自分も周りも変わります。そう思うと、嫌なことも踏ん張れたり、楽しいことも思い切り楽しめたりする気がします。学生の時間は、毎日同じ事の繰り返しのように、毎日違って大変です。そこにいろんなことを感じて疲れたりもしますが、楽しさもあったりします。時間があるようで足りない気もします。目の前に必死になる日々ですが、学生の限りある時間の中で思い切りやりたいことを味わい、学生の時間を満喫できることを願っています。陰ながら応援しています！

卒業生メッセージ

理療科3年2組 田屋 聡

みなさん、こんにちは、あるいはこんばんは。北海道札幌視覚支援学校高等部専攻科理療科3年2組の田屋聡です。

肌寒い風の中にも、春の暖かい日差しが感じられる今日、私たち卒業生、修了生のためにこのような厳かで晴れやかな式を挙行していただき、心より感謝申し上げます。

ついこの間、真新しい白衣に身を包み入学したあの日から、あっという間の3年間でした。クラスメイトと笑いあった休み時間、部活動に打ち込んだ日々、そして厳しい勉強や受験への不安などすべての思い出が鮮明に浮かびます。

楽しいときだけでなく、時にはぶつかり合い、困難を乗り越えてきた経験が私たちを大きく成長させてくれました。ありがとうございました。

卒業メッセージ

理療科3年2組 中村 翔綺

私は北海道札幌視覚支援学校専攻科理療科3年2組の中村翔綺です。

札幌視覚支援学校での3年間は、人見知

卒業生へのメッセージ 高等部・専攻科

りだった私が多くの人と関わり、自分を変えることができた貴重な時間でした。クラスメートや先輩後輩と一緒に遊び、語り合ったことは最高の思い出です。臨床実習では自分の思いを先生にうまく伝えられず、悩むこともありましたが、それも自分を成長させてくれた大切な経験です。春からは新しい環境になりますが、ここで学んだことを基礎に理療の新しい技術の習得に挑戦していきます。そして自分が興味を持てる分野を積極的に見つけ、学び続ける姿勢を大切にしたいです。関わってくれたすべての皆様に心から感謝申し上げます。

卒業生からのメッセージ

理療科3年2組 丸岡 瑠成

私は1、2年生のときは国家試験のことを深く考えず試験に向けての勉強をしていませんでした。3年生になってから勉強すればいいやという甘い考えでいたからです。しかし、3年生になっていざ勉強を始めると1年生の解剖学や生理学などの基礎科目がわかっていなかった為、2、3年生の科目を理解して覚えるのにとても時間がかかりました。勉強をする習慣もなかった為、集中力も長くは続かず、苦行でしかありませんでした。勉強を始めるタイミングは早ければ早いほど国家試験前の焦りやプレッシャーなどの気持ちの面でも楽になると思います。それぞれの学年で行う科目はほとんど全部繋がっているので、勉強を続けてる方はそのまま継続し、私のように勉強してない方は同じ目に遭わないように少しでも早く始められるよう頑張ってください！

保健理療科3年担任 中谷 薫

本校専攻科での学びを終え、新たな一歩を踏み出される皆さん、修了誠におめでとうございます。視覚障がいやそれぞれの持病と向き合いながら、学習や実技、臨床実習に真摯に取り組んできた日々は、決して平坦な道ではなかったと思います。しかし、その経験こそが、患者さんや利用者さん達などの愁訴に寄り添う力の源となり、今後の大きな強みになると思います。本校で培った知識と技術、そして困難を乗り越えてきた自信を胸に、それぞれの現場で社会に貢献されることを心より願っています。

理療科3年1組担任 柴崎 公平

卒業、修了を迎える皆さんおめでとうございます。皆さんの新たな門出に際し、私自身、心から喜びを感じています。

また、専攻科修了生の皆さんには、担任として、教科担として多くの時間、関わりを持たせていただいたことに感謝すると共に、至らなかった点多々あったと自責の念を感じているところです。

さて、専攻科修了生の皆さんは、これからが社会人としてのスタートあるいは再スタートとなります。これからは、それぞれの環境、状況の中で自分で考え、自分で決断し、それに従い自分で行動あるいは選択する場面が一層多くなるかと思えます。そして、その責任を負うのも自分であるということ深く実感して行くのではないのでしょうか。この学校で過ごした時間も含め、これまでそれぞれが培ってきたものを基盤に、皆さんが社会人として有意義にそして自由に生きることを心から願っています。

理療科3年2組担任 篠澤 正樹

高等部普通科卒業生・専攻科修了生の皆さん、卒業おめでとうございます。

卒業式は旅立ち、門出と言い換えられるように、人生の節目のひとつだとわたしは思っています。卒業を迎えた皆さんは、友達との別れ、家族への感謝、進学・就職先への不安と期待を感じていることでしょう。わたしは普通高校、北海道高等盲学校の専攻科を卒業する時にそう感じました。

皆さんの卒業にはご家族を始め、たくさんの方の協力があったはず。視覚に障がいを持ち、これまで様々な困難があったと思います。中途視覚障がい者の方は、今後の人生に希望を見いだせなかった時期があったかもしれません。しかしながら3年前、社会的自立を目標に進学してきた皆さんに、わたしは期待していました。今は4月から、理療師として社会的自立を果たそうとする専攻科修了生に、わたしは期待しています。

最後になりましたが、わたしは理療科3年2組の担任ができたことを誇りに思います。修了おめでとうございます。

転出・退職者紹介

<教諭>

小薬 庸子（手稲養護学校三角山分校）
大橋 かおり（余市養護学校）
角田 萌（稚内養護学校）
島貴 麻衣子（江別市立野幌若葉小学校）
三上 貴史（苫小牧市立糸井小学校）

<実習助手>

佐藤 美羽（美深高等養護学校）

<期限付教諭>

片山 亜紀乃（任期満了）

<期限付寄宿舍指導員>

福士 清乃（任期満了）

<事務主任>

小林 淳子（有朋高校）

後記にかえて

令和7年度も終わりですね。

1年間、皆様方のご理解とご協力、誠にありがとうございました。

皆様、体調に気を付けてお過ごし下さい。

